

まちづくりの進ちよく状況をチェック

より魅力的で暮らしやすい西脇市にするため、市では「総合計画」に基づいてさまざまな施策を展開しています。その成果を計るため、市民の皆さんが日々の生活で感じられていることや、市政に対するご意見などを直接伺いするのが「まちづくり市民アンケート」です。
今回のまちづくり市民アンケートの結果を、総合計画（後期基本計画）を策定した平成24年度のアンケート結果と比較しました。



「まちづくり指標」
46項目のうち、全体の約6割に当たる27項目が、望ましい方向に推移しています（下表1に抜粋）。

○地産地消

「地元でとれた農産物・畜産物を意識して購入している」方が特に増えています。安全・安心な食材を求める消費者の増加を背景に、北はりま農産物直売所「北はりま旬菜館」等の地域の農産物直売所をはじめとした地産地消への取り組みが成果となって表れてきていることが伺えます。

○教育環境

「小・中学校では、子どもたちが学習する教育環境が充実している」ことが増えています。

「子どもたちの教育に、地域・家庭・学校が連携して取り組んでいる」と感じる人が増えており、市の教育施策などを評価する声が増えています。

○都市基盤（生活環境）

「住んでいる地域が清潔できれいなまちである」ことを特に評価する割合が増加しています。

○行政経営

「市民の意向が市政に反映されている」「市職員は市民の声に耳を傾け、熱心に仕事に取り組んでいる」のいずれも6ポイント以上改善しています。ただし、全体的に低い数値であることから、今後も市民の皆さんの満足度向上に向けて、継続して業務改善に取り組む必要があります。

（表1）

アンケート項目	H24	H27	H24との比較
産業・経済に関する項目			
地元でとれた農産物・畜産物を意識して購入している	45.9%	51.4%	5.5%
教育・文化・スポーツに関する項目			
小・中学校では、子どもたちが学習する教育環境が充実している	44.4%	50.6%	6.2%
子どもたちの教育に、地域・家庭・学校が連携して取り組んでいる	44.0%	47.6%	3.6%
「男は仕事・女は家庭」という男女の固定的な役割に同意しない	64.1%	70.2%	6.1%
生活安全・安心に関する項目			
災害に強いまちになってきている	44.6%	46.9%	2.3%
犯罪や交通事故、消費者被害などに不安なく暮らすことができる	42.8%	46.7%	3.9%
都市基盤・生活環境に関する項目			
住んでいる地域が清潔できれいなまちである	61.3%	67.5%	6.2%
地域自治に関する項目			
行政だけでなく、市民や地域と協働でまちづくりが行われている	40.2%	45.7%	5.5%
行政経営に関する項目			
市民の意向が市政に反映されている	15.1%	21.4%	6.3%
市職員は市民の声に耳を傾け、熱心に仕事に取り組んでいる	29.7%	36.3%	6.6%



「まちづくり指標」
46項目のうち、全体の約4割にあたる19項目が、望ましくない方向に推移しています（下表2に抜粋）。

○健康・子育て・福祉

「困った時に、身近に相談できる人がいる」「健康づくりのために何らかの活動・取組を行っている」などと感じる人の割合が低下しています。西脇市の高齢化率は平成28年2月1日現在で30・6%と年々増加しています。少子高齢化の上昇によって活動的な人口の割合が減ってきていることと併せて、市外への人口流出などが地域のつながりの希薄化を招いていると考えら

れます。

○都市基盤（公共交通）

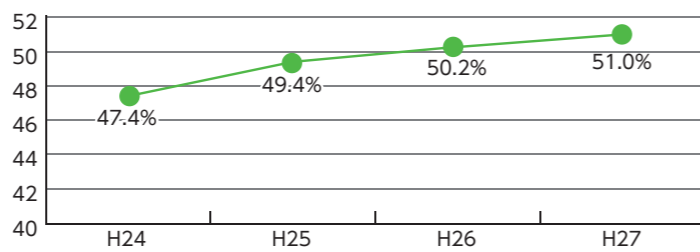
都市基盤に関する項目では、「市内外への移動に公共交通を利用したことがある」と回答する人の割合が減っている一方で、「買物や通院・通学の移動に困っている」と回答した人の割合は増えており、公共交通の充実が大きな課題となっています。

○望ましい方向に推移した項目

望ましい方向に推移した項目が多い一方で、「西脇市に住み続けたい」「住んでいる地域に愛着を感じる」と感じる人の割合が低下しています。西脇市で暮らしていく上での総合的な満足度をどのよう

（表2）

アンケート項目	H24	H27	H24との比較
健康・子育て・福祉に関する項目			
地域福祉に関する活動に参加したことがある（過去1年間）	41.4%	37.3%	-4.1%
困った時に、身近に相談できる人がいる	71.2%	69.8%	-1.4%
健康づくりのために何らかの活動・取組を行っている	47.6%	43.7%	-3.9%
都市基盤・生活環境に関する項目			
市内外への移動に公共交通を利用したことがある（過去1年間）	42.6%	41.4%	-1.2%
買物や通院・通学の移動に困っている	33.5%	37.3%	3.8%
西脇市に住み続けたいと思う	70.7%	67.8%	-2.9%
地域自治に関する項目			
住んでいる地域に愛着を感じる	73.2%	70.2%	-3.0%



まちづくり市民アンケートの概要

まちづくり市民アンケートは、政策・施策の展開による成果を把握するため、総合計画の初年度となる平成19年度から毎年継続的に実施しています。

◆調査期間

平成27年8月20日～9月14日

◆調査方法

郵送による調査票の送付・回収

◆対象者数

15歳以上の市民（無作為抽出）
1,000人

◆回答者数

510人（回答率 51.0%）

◆アンケート内容

西脇市の政策や回答者の日常生活について（49項目）、西脇市のまちづくりに対する自由意見 など



アンケート回答率の推移

総合計画（後期基本計画）の指標対象となる平成24～27年度の回収率は4年間で3.6ポイント向上しており（右図）、まちづくり市民アンケートへの理解は年々進んでいます。

皆さんの 声 を 市政に

まちづくり市民アンケートでお寄せいただいた皆さんからのご意見は、子育てや医療、福祉、雇用、防災などをはじめとして多岐にわたっています。ここではその一部をご紹介します、市の現状や考え方をお知らせします。

立場によってさまざまなお意見があり、場合によっては慎重な論議が必要ですが、市民の皆さんから頂いた大切な「声」をしっかりと受け止め、今後のまちづくりに生かしていきます。

写真/
①防犯灯のLED化 ②西脇春日保育園 ③福地川1号雨水幹線排水路改良工事 ④茜が丘複合施設Miraie(みらいえ)

01

防犯灯が少ない場所が多いように感じます。通学路が暗くて不安です
(女性、10歳代)。

A 現在、西脇市では防犯灯をLED化する事業を進めています。その中で、新たな防犯灯が必要な箇所も出てきています。通学路についても、学校や地域の意見を聞きながら、防犯灯の設置を検討していきます。

02

希望する保育所にわが子が入園できるように、または入園しやすくしてほしいです
(女性、20歳代)。

A 認定こども園や保育所の保育利用に当たっては、可能な限り、保護者の意向を考慮して調整を行っています。が、定員等の関係から必ずしもご希望に添えないこともあります。入所時期や児童の年齢等により、施設の職員配置等に対応が可能な場合もありますので、窓口でご相談ください。

03

市内で廃業した「カナート西脇」の跡地をうまく活用して、地域の役に立ててもらいたい
(男性、20歳代)。

A 近隣地域を含めた市場環境の影響を受けるところが、商業施設の閉鎖は利便性の低下や環境面の悪化につながりかねないため、引き続き跡地利用への支援や働きかけを行っています。なお、「カナート西脇」跡地は市役所新庁舎の建設候補地の一つとして検討中です。

04

学童保育は小学3年生までだと聞いたけど、4〜6年生はしてもらえないの
(女性、60歳代)。

A 放課後児童クラブ(学童保育)は、双葉小学校、芳田小学校で1〜6年生までの保育を実施しています。ほかの学校についても、受入体制が整い次第、順次拡大していく予定です。

05

大阪まで働きに出ています。市内に安定して働ける場がほしいです
(男性、40歳代)。

A 従来から企業誘致等による多様な雇用機会の創出を図っているところですが、今後も引き続き、市内での就労機会の安定確保に努めていきます。

なお、今年度は物流1社が本格操業を開始し、新規に正規職員を募集される予定です。また、非鉄金属系2社が工場建設に着手される予定ですので、それに伴って新規雇用の募集も始まる見込みです。

06

女性の力に期待がかかる今、起業についてのアドバイスがもらえたり、元氣な女性の意見を聞けたりできる場を設けてほしい
(女性、60歳代)。

A 平成27年10月にオープンした茜が丘複合施設内の男女共同参画センターでは、「起業ステップアップセミナー」や「女性のためのお仕事相談」等を実施し、女性の就業や起業を支援するための取り組みを進めています。

平成28年度以降は、意欲的な女性を対象とするセミナーの実施や元氣な女性の交流・意見交換の場を設けることも検討していきます。

07

お年寄りが増えるから増えると思うので、介護施設が足りるか心配です。それに、介護してもらうのに人手が足りないのでは…
(女性、60歳代)。

A 平成28年度中に、蒲江で特別養護老人ホームが開設される予定です。今後も、高齢者の増加等の状況を踏まえながら、施設や在宅での介護サービスの充実を図っていきます。

また、介護の人手不足については、介護職員の資格取得に対して受講料を補助する制度を設けており、新たに介護職に就こうとする方を後押ししています。

08

台風などの災害時に、毎回同じところの水位の上昇などで危険な目にあつたので、河川の整備をきちんとしてもらいたい。近年増加している大規模な自然災害にも負けないまちづくりを
(男性、30歳代)。

A 加古川等の河川については兵庫県が順次改修を行っており、福地川については市が改修等を行いました。しかし、近年の異常気象に対しては、河川や水路の改修だけでは対応できない状況が発生しています。この対策として、ため池や農地に雨水を溜め、河川の氾らんを軽減する取り組み(総合治水)も進めています。

